

日野太郎の How to エコドライブ!

タイヤ空気圧の点検篇



これまでは燃料消費量を抑える運転のコツを紹介してきました。今回は点検篇としてタイヤの空気圧と燃費との関係について紹介します。

空気圧の低下は燃費悪化や偏摩耗の要因に

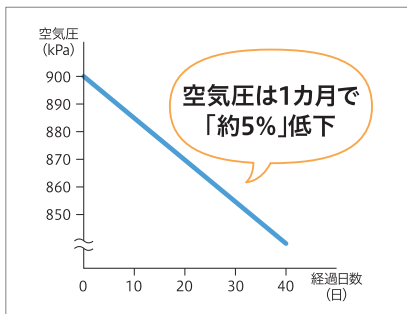
タイヤの空気圧は1カ月間で約5%低下します。そして、100kPa(キロボルト)低下すると、燃費は約1.5%悪くなり摩耗も進みます。しかし、燃費が良くなるからといって空気圧を高めすぎると、バーストなどが起きやすくなり安全上の問題が生じます。したがって、タイヤの空気圧は「常に適正な範囲」にしておかなければなりません。

10トン車の場合、空気圧が「100kPa低下」すると
燃費は「約1.5%低下」
摩耗は「約5~10%早まる」

といわれています。



●トラック・バス用タイヤの 空気圧の低下状況(イメージ)



出典:公益社団法人 全日本トラック協会「エコドライブ推進マニュアル」、一般社団法人 日本自動車タイヤ協会「タイヤのおはなし」、横浜ゴム株式会社「空気圧の知識」

適正な空気圧を保つために

日常点検である空気圧のチェックは、走行前のタイヤが冷えている時にエアゲージを使用して行いましょう。指定空気圧の範囲内(下記の表)で調整してください。指定空気圧については、取扱説明書またはドア付近のプレートなどに掲示されています。

●充てん空気圧の調整範囲

タイヤの種類	範囲(kPa)
小型トラック用タイヤ	0 ~ +70
トラックおよびバス用タイヤ	0 ~ +80

⚠ 点検時の注意点

- 1 走行するとタイヤの発熱により空気圧は高くなりますが、増加した分の空気は絶対に抜かないでください。タイヤが冷えると空気圧は元に戻り適正な空気圧より低下してしまいます。
- 2 複輪の場合、空気圧差をつけないでください。
- 3 パルプへの泥水の浸入による空気圧漏れを防ぐために、パルプキャップを必ず取り付けてください。

タイヤの空気圧を適正に保つことで、燃費の悪化や、バースト・偏摩耗などのタイヤ寿命の短縮を防ぎ、事故防止にもつながります。

出典:一般社団法人 日本自動車タイヤ協会「タイヤのおはなし」

日野自動車は、タイヤ空気圧の異常を早期発見し、稼働を止めない予防整備に貢献

タイヤ空気圧モニタリングシステム

日野プロファイア
オプション設定

各タイヤに搭載したセンサーにより、タイヤ空気圧の情報を常時マルチインフォメーションに表示。タイヤ空気圧が規定値以下になったタイヤがある場合は、警報とディスプレイ表示で知らせます。



空気圧の低下をディスプレイの表示でドライバーに知らせます。

